

8. 学校評価～中間評価の結果と改善策～

学校教育目標

**確かな学力をもち、心豊かでたくましく生きる子の育成
～自力、全力、底力を発揮して～**

① 確かな学びのある学校づくり

- 児童アンケートでは、①の1, 2で肯定的な割合が90%を超えていて、児童は意欲的に対話しながら学びを深め、自分の考えを発表したり、友達の話の聞いたりしている。
- 教職員アンケートでは、①の柱の肯定的な割合がいずれも100%で、教員もプランの取組に基づいて朝学習や帯タイムなどではしっかりと取り組ませ、組織的に実践できている。
- ▲保護者アンケートでは、①の3で肯定的な割合が80%と、児童が家庭学習には取り組んでいるが、基礎的な学力がついていないと感じている保護者がいる。
- ▲検証問題の結果、自分の考えを明確に書く力がついていない。
- ☆基礎基本の習熟を図ったり、全員が授業での「分かった」を表現できたりすることを大切にしていける。そのために、児童のつまずきにに応じた手立てを複数考えたり、対話につながる児童が考えなくなる問い返しをしたりすることで主体的な学びにつなげていく。

② 温もりのある学校づくり

- どの項目も肯定的な意見が多い。
- 昨年度は保護者アンケートの⑥「学校は人間関係づくりを通して、いじめの未然防止につとめていると思いますか」の項目について、割合がやや少なかったが、今年度は割合が上がって9割以上になっている。
- ▲保護者アンケートの⑧「お子さんに家での役割(手伝い・自分の仕事)をさせていますか」について、割合がやや少ない。
- ▲児童アンケートの⑥「困っていることがあったら、先生などに相談している(相談しようと思う)」について、割合がやや少ない。
- ☆ファミリーデーの取組を継続する。ファミリーデーを通し、お手伝いをする事の良さを感じ児童が「続けてお手伝いをしたい」と思えるようにする。
- ☆アンケートや蛸島っ子面談、なかよし集会で児童同士が交流しやすい場の設定や先生に相談しやすい雰囲気をつくる(高める)。

③ 健康な体を育む学校づくり

- 早寝早起きや朝食についての項目は、昨年度重点的に取り組みを行い、肯定的割合が高くなった。安全に関する取り組みについても肯定的割合が高い。
- ▲運動についての項目は、教職員、保護者の肯定的割合が80%と、体力の向上に関して課題がある。
- ☆家庭学習として簡単なストレッチや体操を提案し、定期的に家庭での運動に取り組ませる。

④ 地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

- 再開した蛸島郵便局の見学や、避難所・仮設住宅の方を巻き込んだ取組ができた。
- 避難所運営に携わっていた地域の方をゲストティーチャーとして、総合で地域の話をしていただいた。
- ▲町全体が復旧途中であり、例年ならできていたことができなくなった。
- ☆復旧状況を見ながら、仮設住宅の方との関わりやゲストティーチャーの要請などをして連携を図る。

⑤ 教職員のチーム力を活かす学校づくり

- どの項目も100%である。定時退校を守ろうという意識が高い。
- 共通理解を図りながら、教育活動を行うことができおり、組織として行う、という意識が高い。
- ▲積極的な学校経営へ参画意識の強肯定率が低いので業務の偏りが懸念される。
- ☆C4THの掲示板や職員室の連絡黒板を使って、マイ定時退校日や定時退校日を意識させ、いつまでに・だれが業務を行うのか、見通しがもてるような提案をする。